

様式第 1（第 15 条関係）

会 議 録

会議の名称	第 4 回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会
開催日時	令和 6 年 12 月 3 日（火）15 時 00 分から 16 時 50 分まで
開催場所	和泉市役所 3 階 庁議室
出席者 (敬称略、五十音順)	【委員長】 桃山学院大学経営学部教授 学芸員課程主任 井上 敏 【副委員長】 和泉商工会議所 副会頭 高橋 澄代 【委員】 公募市民 大西 起子 一般財団法人和泉市文化振興財団 評議員 久保 尚平 公益財団法人大阪観光局 常務理事 平田 知敬 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館館長 松本 伸之 【事務局】 教育次長兼生涯学習部長 辻 公伸 生涯学習部次長（文化遺産活用・久保惣記念美術館担当） 兼文化遺産活用課長 森下 徹 久保惣記念美術館 館長代理 田中 ゆかり 副館長兼総括参事 橋詰 文之 総括主幹 奥山 高起 株式会社ダン計画研究所 宮尾、上岡 【オブザーバー】 一般財団法人 和泉市文化振興財団 理事長 藤原 明
会議の議題	和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン(素案)・概要版(素案)について
会議の要旨	事務局より、和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン(素案)・概要版(素案)の内容について説明を行い、議事ごとに審議を行った。
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項 (会議の公開・非公開、傍聴人数等)	公開会議、傍聴人数 0 名

1. 開会

2. 前回の議論のふりかえり・3. 議題

【事務局】資料1（運営ビジョン素案）・資料2（A3運営ビジョン概要版）を中心に説明。併せて参考資料1の第3回論点別委員意見整理を説明。

○前回の意見を受けてのパブリックコメント素案の修正箇所の説明

目次

- ・ 当初は、「はじめに」のみだったが、「ごあいさつ」、「はじめに」と分けた。
- ・ 「ごあいさつ」には、教育長のあいさつの掲載を予定しており、「はじめに」には、地元企業久保惣から美術館設立に至る歴史的背景について、ひとつの章として掲載した。

P. 1 はじめに

- ・ A3の資料(資料1の追加資料)で、「はじめに」の修正前、修正後を掲載した。
- ・ 第2回委員会で久保委員、平田委員から、「美術館設立の歴史的背景を言及することで、愛着・誇りの醸成につながる」といった趣旨の意見をいただき「はじめに」という項目を追加した。
- ・ 委員の意図する内容について、当館が40周年を迎えた令和5年3月に発行している40周年記念誌に掲載されていた文章を引用する形で掲載をした。
- ・ 上記について若干修正があり、修正前の文章においては「和泉市は丘陵地を生かしたみかん生産が・・・」と唐突に文章が始まっていたので、修正後では地元企業久保惣からの寄贈により設立されたという歴史的背景について触れるような形で書き出しを修正し文脈を整理した。

P. 2 第1章 和泉市久保惣記念美術館運営ビジョンの策定について

- ・ 策定の趣旨について整理。当館がさらに魅力を高め、発展し存続するために、10年後の姿を見据えた将来像を明確にする必要がある旨、明記した。
- ・ 策定にあたり外部有識者である皆様方の知見を踏まえ策定を行う旨、明記した。

P. 3

- ・ ビジョンの位置付けとして、市・教育委員会の上位計画である第5次総合計画などを上位計画としたうえで、和泉・久保惣ミュージアムタウン構想、和泉市生涯学習・スポーツ推進計画と関連する計画として位置付けられる旨記載した。
- ・ ビジョンを構成する要素としては、当委員会でもたびたび資料配布させていただいているが、ミッション、ビジョン、コンセプトを示す表を掲載した。
- ・ 計画の実施推進期間としては、令和7年度から16年度までの10年間とした旨を掲載した。

P. 4

- ・ 第2章 運営ビジョン策定の背景－和泉市久保惣記念美術館の歩み－については、事実の列挙として掲載している。

P. 5

- ・ (3) 施設機能として、本館、新館、茶室などの多くの施設を有しており、各棟の施設機能配置について明記した。

P. 6～7

- ・ 当館のこれまでの取り組みと特色を掲載した。

P. 8

- ・ 令和6年3月末時点での分野別収蔵品数を掲載した。
- ・ (2) 展示事業として、現在常設展を年3回、国宝・重要文化財を中心に構成した特別陳列を年1回、他館の作品も借用しながら展示する特別展を年1回、合計5回の展覧会を開催。
- ・ (3) 教育普及事業として、市民講座では、展覧会に関連したテーマを取り上げ担当学芸員による講座を実施。文化芸術科学ふれあい体験事業では、市内6年生全員に美術館にお越しいただく事業を行っている旨記載した。

P. 9

- ・ (4) 市民ギャラリー事業として、貸ギャラリーとして、個人やグループからの申込みにより展示活動の場として提供している旨記載。
- ・ (5) 市民ホール事業として、ミュージアムコンサートを開催するなど、ミュージアムコンサートをきっかけに当館に来館の機会にもなり、アーティストの方々の活動の場とともに相乗効果になっている旨記載した。
- ・ (6) 市民創作教室の活動として、市民創作教室を活動の場として活動している久保惣文化会には、陶芸、洋画、日本画など12部会が年間通じて活動を行っており、多くの方々が文化芸術活動に触れている旨記載した。
- ・ (7) 和泉・久保惣ミュージアムタウン事業として、平成30年3月にはパブリックアートとして、KUBOSOの看板を設置。
- ・ 平成31年3月には、アートガッシュと題したプロジェクトにより、クリエイターによりリライトされたパブリックアート全30点を、当館、桃山学院大学、シティプラザなどのミュージアムタウン内に設置している旨記載した。

P. 10

- ・ 令和3年には、当館の近隣にある古民家をギャラリーや工房にリノベーションする支援を行い、アーティスト等が活動できるアートギャラリー河野邸が誕生した。
- ・ 今年3月に、ガバメントクラウドファンディングを活用させていただき、和泉シティプラザのガラス面に、神奈川冲浪裏、凱風快晴をリメイクしたアートを設置した。

P. 11

- ・ 和泉市久保惣記念美術館を取り巻く現状と課題について、第1回策定委員会でも提示した資料について掲載した。

P. 12

- ・ 美術館を取り巻く社会環境の変化として、①国の動向、②周辺環境の変化（テクノステージの変化、インバウンドの動向、新たな取り組み）について掲載した。

P. 13

- ・ 和泉市久保惣記念美術館の成果と評価として、第2回策定委員会の資料として示しているSWOT分析の表について、この章のとりまとめ資料的に有効であることから、項目を追加し挿入した。

P. 14 第3章運営ビジョン 1 使命(ミッション)

- ・ 使命(ミッション)①②について、各委員から頂戴した指摘を踏まえ文章表現を変更した。
- ・ ①「普遍的な価値」の表現について、松本委員・大西委員からの意見を踏まえ、普遍的な価値は前提としてあるものと捉え、一般の方への言葉の分かりやすさ・入りやすさ考慮し、前回「普

遍的な価値を伝え、多様な価値観・心の豊かさを育む美術館」を
今回「多様な価値観・心の豊かさを育む美術館」と変更した。

- ・ ②「未来の和泉を創造する美術館」については、高橋副委員長・松本委員からの意見を踏まえ、一般の方への言葉の分かりやすさ・入りやすさ考慮し、前回「未来の和泉を創造する美術館」を 今回「未来の和泉を織りなす美術館」とした。
- ・ ③については、前回承認いただいたので、変更なく「まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館」とした。

P. 15 2 基本方針(ビジョン)

- ・ 前回松本委員・大西委員からの、文章の長さやそれに伴う分かりにくさについての指摘や、久保委員からのミュージアムタウン構想との関係性についての指摘があり、文章を分かりやすく簡略化し、ミュージアムタウン構想の理念「美術館とまちが融和した質の高い空間」に基づくビジョンであることを受け、「多様な主体が美術館のリソースを最大限に使いこなすことで、美術館とまちが融和した質の高い空間を形成し、和泉の価値と創造性を高めます。」とした。
- ・ それに合わせて説明文章についても修正した。

P. 17 3. 運営の取組方針 (コンセプト)

- ・ (3) 展覧会・教育普及の充実について 前回資料では、「③学校との連携、美術に親しむ機会の提供」としたが「③学校教育との連携」「④美術に親しむ機会の提供」に分けて記載した。
- ・ (3) ③については、高橋副委員長より、こどもが体験できるワークショップについて追記してはとの意見を踏まえ、文中に「ワークショップ(参加型活動)の開催」を明記した。
- ・ (3) ④の一番下井上委員長、久保委員、平田委員から、展示の仕方・見せ方・伝え方の工夫について意見を頂戴し「作品解説に加え、作者についての解説、作品の制作技法についての説明や参考図なども設置し、作品を見るだけでは分からないことを伝え、より美術に親しみを持っていただきます。」と追記した。

P. 18

- ・ (4) 伝えたい人に「伝わる」広報・発信、③関係機関への情報提供について、平田委員より、「インバウンドも含めて来ていただく取り組み、旅行会社に知ってもらう事も広報の取り組みとして必要では」との意見を頂戴したが文中に漏れていたのが③関係機関への情報提供の文中に追記したい。
- ・ 具体的には、ひとつめの文章で、報道機関へのプレスリリースや訪問等による広報活動のほか、旅行会社、出版社等に対する情報提供及び多様な主体への広報活動を積極的に行います、と修正させていただきたい。

P. 19

- ・ (5) 多様な主体との連携協力、パートナーシップについて、現状において①か⑤を掲載しており、その実現に向けて、庁内ワーキンググループにおいても実現可能性が高いものについて検討を行っている。
- ・ 上記に加えて、大西委員からは、小樽市総合博物館のボランティアを例に挙げていただき、市民ボランティアとの連携についてのご意見を頂戴した。市民の方々には多くのポテンシャルを秘めておられる方が多く、例えば、①から⑤の取り組みを行うなかで、ボランティアの募集を行い、共同して実施する等検討・研究したい。
- ・ 平田委員からは大阪にある領事館との連携について意見を頂戴した。領事館会議が定例的に開

催されており、直近では中之島公会堂で実施している。平田委員からは、当館の西棟を領事館会議に使ってもらえれば、PR効果になるのではないかと提案をいただき、平田委員には既にアクションを起こしていただいている。

- ・ 各国領事館のトップにお越しいただければ、かなりインパクトがあるので、実現に向けて積極的にPRしていきたい。

P. 21

- ・ (7) 経営、環境、施設整備として、平田委員からは、ホール、創作教室、西棟の新たな活用により収益に繋がるような取り組みをしては良いのではないかと、との意見を頂戴した。
- ・ ①として、西棟の高付加価値な利用策として、企業版プレミアムクラブの創設について、高橋副委員長からも前向きなお声をいただいたが、商工会議所の役員の方々へのアンケート調査を行ったうえで、賛助会員制度の創設に向けて取り組みたい。
- ・ また、井上委員長、高橋副委員長からは、老朽化のみならず、来館者動線の複雑さ、狭さ、分かりにくさや、本館の地下トイレの不便さなどについて利用者目線での指摘もあり根本的なリニューアルが必要との意見も頂戴した。

P. 22

- ・ 第4章 ビジョン推進のために(先行的取組)、1. 美術館を知ってもらいより多くの方に来ていただく広報宣伝活動とインバウンド戦略については、現在動画制作を行っていることもあり、平田委員からは、東京で開催しているツーリズムエキスポにおいて150～180万人の来場があるとのことで、大阪が借り上げているブースにて投影してはどうかとの提案もいただいている。
- ・ 動画が完成した際には、効果的な場所で、積極的に投影・PRしていきたいと考えている。
- ・ 松本委員からは、50周年を見据えながら国際的なサミットを開催してもいいのではないかと。和泉市、美術館を知ってもらう機会を強引にでも呼ぶ機会を作ってはどうかとの意見を頂戴している。
- ・ 貴重な意見を踏まえて、来年度シンポジウム開催の予算確保に向けて動いており、実現に向けて取り組んでいく。

P. 23

- ・ 2. 関係機関との連携協力により美術館のリソースを最大限に使いこなす、特に大学との連携について、井上委員長から地域貢献として桃山学院大学と当館とのさらなる連携について前向きな意見を頂戴している。平田委員からも多くの留学生が大阪に来ているため、ファンになってもらうような取り組みをととの意見を頂戴している。

P. 24

- ・ 3. リニューアル計画の推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館について、高橋副委員長、久保委員から意見を頂戴している。
- ・ 未利用地について活用する必要性、短期的な視点と長期的な視点をもったリニューアルが必要であるという指摘、地域と共に美術館が歩んできた時代背景も踏まえ、これまでの方や新しい方を、美術館がコミュニティとして使われるなかでどのように取り組んで行くか、といった大局的な意見も頂戴している。

P. 26

- ・ 5. 組織マネジメントの強化と効率的で効果的な運営へ、について、井上委員長からは、美術

館がまちづくりや観光という要素について業務が増えていること、マネジメント人材が不在であること、人材育成の難しさについて、学会でも課題として挙げられていることについて意見を頂戴した。また、交通利便性が悪い現状を踏まえ、旅行会社として商品化できないか、とのご意見や指定管理制度の活用については一部でもやらざるを得ないのではないかと意見を頂戴した。

P. 27

- ・ 新たに、6. 先行的取組に係る優先順位予定、として一覧表にしている。
- ・ 松本委員からは、絵にかいた餅にならないよう、職員体制も踏まえた、優先順位が必要ではないという指摘を頂戴している。
- ・ 指摘通り、限られた職員体制で取り組むので、①～⑤に定める取り組み方針のうち、優先順位として表にしている。
- ・ ①広報・インバウンドを令和7年度～9年度 ②関係機関との連携を令和8年度～10年度として、先行して重点的に取組んでいきたいと考えている。
- ・ 28ページ以降については、資料編としており、第1回策定委員会で提示している参考資料の抜粋として添付させていただいている内容。

資料2 運営ビジョン概要版

- ・ A3概要版は、これからパブリックコメントを実施する際に市民にとって分かりやすい形でまとめた資料である。

(1)和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン(素案)・概要版(素案)について意見・質問

○はじめに

【井上委員長】

- ・ A4資料、はじめにのところの赤字で書いてある部分。修正前のみかんの部分について冗長と感じていたので修正後で良いと感じた。
- ・ 久保惣の和泉市に対する貢献と和泉市全体に対する部分のバランスをとらないといけない。久保惣をシンプルに紹介する上ではできている。
- ・ はじめにで「地元企業「久保惣」が紡ぐ…」がついているところで、和泉市久保惣記念美術館という名前の性格を表しているような難しさを合わせて反映しているようである。
- ・ 新住民の方にもよく分かるように、和泉市民に対して分かりやすく、それでいて総括的にしていきたい。

【大西委員】

- ・ 和泉木綿は必ずしも和泉市だけではないので、現文章だと和泉市だから和泉木綿なのかと受け取ってしまうので文章を変えても良いのではないかと。
- ・ 「泉州地域を中心に生産されている和泉木綿は…」、「和泉木綿は本市の特産物として広く知られており…」のような表現にしてはどうか。

【久保委員】

- ・ 和泉市としての第3セクターを含めた商工業エリアの開発、ミュージアムタウン構想と商業地域との分離、大構想の中にあるものの美術館だと思っている。商工業との連携が必要ではな

いか。学校ができ、電車の延伸、第3セクターができ、人口を戻したいという意図で第3セクターの代表を父は引き受けた。

- ・ 岸和田和泉インターという名称など周りの歴史が重なればと思う。全体の必要性や現在の和泉市の構造変化、先に美術館が出来ているけれど、移り変わりにより人口が戻った、固定資産税が上がった背景がある。
- ・ そういった背景が抜けているが、その点は美術館だけのテーマだから良いのだが、美術館だけが主になっており和泉市民は分かるのかという疑問がある。
- ・ 美術館ができて新館を含めて周辺の開発があつてこそ今の形となり、新館がなかったら当時の皇太子殿下は来訪されてない。一帯の開発があつてこそ桃山学院大学と学生の流入があり、学術ベンチャー都市としてあのエリアを指定した。河川工事が始まり、和泉市として拡大してきた。
- ・ 主語は美術館で良いが、パブコメは市民を巻き込むものであり何で美術館ばかりになるのかと思うだろう。商工会議所も西館を使いたい、領事館もと広げる中で、背景に関連することを混ぜないと特権がある人だけが使えるのかと誤解を受けてしまう。
- ・ 商工会議所はバブル崩壊後、珍しく会員が増えている、関空もインバウンドで人が戻り、和泉市も土地が活性している。その未来像を描かないと広がりが出ないのではと感じる。
- ・ 市全体のプロジェクトであることを言わないと、学校や関連することをもっと巻き込んで書いていく方が良い。関連性を表現した方が市民の方は分かりやすいだろう。
- ・ はじめには、和泉市や美術館が行ってきたことの話があつて、久保惣の美術館への関わりの説明はその後にするのも一手である。

【松本委員】

- ・ 外部からの視点として、はじめにの次に一行「地元企業「久保惣」が紡ぐ…」とあると地元企業の憲章に見える。
- ・ 市が運営してきた40周年があるはずだが、このタイトルだけだと市の運営の部分が弱く聞こえ、消え失せてしまっている。はじめには、全体を総括してビジョン策定についての話になるのではないだろうか。
- ・ 久保惣と言う名の由来や成り立ちや久保委員からあつた話は、前提として1章を立てるような内容ではないのか。後半の趣旨と相容れない部分が多い印象を持った。
- ・ 内容というよりも置き方の問題で、序章としてあっても良いのではないか。
- ・ 切り取りがたい部分ではあるが、はじめにに書いてあることも次の2、3ページ目のビジョン策定についての背景も総合して、こういうのではじめました、という構成上の問題である。
- ・ 今のはじめににある話はもっと膨らませても良いのでは。凝縮しすぎているので、久保委員からの話はそれだけのボリュームがあるはず。久保惣美術館と取り巻く沿革と環境をもう少し丁寧にしたい。
- ・ はじめに自体は、この半分のボリュームでも良いのでは。長いとあまり読まれない。

【事務局】

- ・ 久保委員の意見について、素案の4p、12p②の周辺環境の変化で若干触れているが、そのあたりの要素をはじめにの部分で触れられるように検討する。

- ・ 和泉市の成り立ち、地域の発展の背景、歴史的背景、関係性の表現については文章の量、バランスを含め検討が必要になる。地元企業久保惣から美術館への紡ぎをメインにしたいと思っている。
- ・ 地域・経済等の変遷の話となると歴史的にしっかりと調べた上で記載する必要があるので、短期間にはなるが委員の意見の方向性に沿うように考えたうえで修正したい。

○P. 6 コレクション

【井上委員長】

- ・ 冒頭からいきなり各コレクションの説明が始まっているので、違和感がある。数行でも良いのでコレクション説明・概論が必要ではないか。

○P. 11 現状と課題

【井上委員長】

- ・ 現状と課題と書いてあるが、ハード面に偏っているので、ハード面だけではなく、読みやすくしていただきたい。
- ・ 資料編の方で7ページより後は良いが、6ページまでの話は運営状況が書いてあるので現状についての資料(運営状況)と一緒にしたほうが良いのでは。読み手が市民の方なので分かりやすくしたい。

【平田委員】

- ・ 交通アクセスの悪さが課題なのか。右側の詳細の書きぶりについて、パス導入済、直通バス・周遊バスも実施済なので、課題なのか解消済なのか分かりにくい。下から2つ目の部分は、対応済みというように読める。現状と課題であればそれに沿った内容にした方が良い。

○P. 13 成果と評価

【井上委員長】

- ・ 表はこの文字サイズで出すと市民の方は読めないだろう。資料を見やすいようにする必要があるのでは。

【事務局】

- ・ アンケートも含め表の大きさや見やすさも検討する。
- ・ 現況と課題について、本編・資料編の構成や統合も含め検討する。

○P. 15 使命(ミッション)・基本方針(ビジョン)について

【松本委員】

- ・ ミッションは読みやすくなった。説明文の当館の成り立ち2～4行目の意味が分かりにくい。非常に長いという事もある。
- ・ 特に2行目の終わり、「地域に暮らす人々の営みが…」の文章構成の真ん中の所があまりに長くて、資源という言葉を繰り返している。文化施設も資源と言うのが自己撞着に陥っている表現になっている。地域に根ざした美術館として一気に4行目につなぎ、間を取った方がすつき

りする。

【事務局】

- ・ 指摘通りわかりにくさがあったため、趣旨が変わらないのであれば文章を校正し直したい。

○P. 16 取組方針（1）美術品の収集、保存・活用(デジタルアーカイブ等)

【井上委員長】

- ・ 収集方針というのが美術館として定めていると思うので、書き加えていただいたほうが良い。

○P. 17 展覧会・教育普及の充実（特別展・収蔵品企画展のあり方、手法等）

【大西委員】

- ・ 一番下の3行、3つ目のチョボについて、久保惣のキャプションは実に分かりやすい。展覧会によっては読めないものもある。中之島香雪での展覧会のキャプションも非常に分かりやすかった。分かりやすいものが嬉しい。

【井上委員長】

- ・ キャプションについては、中学生でも読める内容で、200字以内でないと人は読まないと言われている。久保惣記念美術館は余計な説明を省いて、最低限の説明がなされている。

○P. 24 リニューアル計画の推進により、収蔵品を最大限活かした展覧会の開催と次世代につなぐ美術館

【平田委員】

- ・ 「収蔵品を最大限活用した…」の部分で、上に課題や問題が書かれているが、対応策なのでどうしていきます、どう考えていきます、と言う点を書くべきである。
- ・ 1つ目のチョボのところ、「リニューアル基本構想の策定が重要です」と書かれているが、策定されていくと思うので、「策定し、基本構想に基づいてリニューアルをやっていきます」と書くべきである。

○P. 25 グローバルな文化財産として、他館との連携強化と世界の美術館との交流促進

【平田委員】

- ・ 1つ目のチョボ・2つ目のチョボの文末についても、「運営していく必要があります」、「活かしていきます、変えていきます」等。どうするのかという事を書くべきであるので変えていただきたい。

○P. 27 先行的取組に係る優先順位予定

【平田委員】

- ・ 優先順位の表の見方がよくわからない。何が重点取組なのか、この時期に1と2は頑張ってください、3と4はこの時期はまだ助走期間である、という一度に出来ないのでは助走期間、本格的実施期間の濃淡をかき分けたほうが良いのではないかと。すべて取組期間と羅列されているので、表現の仕方を工夫して欲しい。
- ・ 無理に表を作る必要はなく、10年間でビジョンを作ることができることからやっていきます、とい

うことになるだろう。表に落とすといつ・何をしていくのかが気になるので、見せ方の問題だと思う。

【事務局】

- ・ リニューアルについて予算要求しているが、市全体としての予算が付くかどうかがある。1、2については動き始めているものもあるし、これからの事もある。業務を進めるにあたり、その景色が見え始めているものもあるが3については大きな予算確保が必要になることから、日表現が難しい。工夫できる部分について検討する。
- ・ 読み手にとって分かりやすい伝え方と事務局側の表現の悩みがあるが、考えていきたい。

○予算

【大西委員】

- ・ ビジョンは素晴らしいが、何をするにもお金が掛かる。
- ・ 今後の取り組みについて、和泉市の予算で取るのか、国の補助金を取りにいくのか、一市民としてどこからお金が出るのか、どこにも触れていないので気になった。
- ・ 本ビジョンに関連する予算の概算はあるのかどうか。

【事務局】

- ・ 茶室の耐震補強改修は平成30年から動いていて、文化庁の補助金を使っている。
- ・ ビジョンの中にも触れているが新たな財源の確保、協賛金制度や桃山学院大学の学生受け入れ等があるが、今後の新たな歳入確保策を考えていく必要がある。一方で、契約の見直し等の工夫も行って財源確保を行っている。
- ・ 現在作っているのはビジョンであり、方向性を決める段階である。ここから具体的な施策をする段階で予算の申請をする。現時点では予算の表記はしない。

○貝塚茂樹氏の旧蔵書について

【久保委員】

- ・ 貝塚茂樹氏の旧蔵書を所蔵しているが、本の行き場に困っており、人手がない為に閲覧できる状態になっていない。収蔵はしているが知られていない、研究者の集められた財産や日本の財産が広がると良い。持ってはいるが使いこなせていない、知られていないのは残念ではある。
- ・ はじめにの意見のところでも伝えたが、あるのに伝えきれてないという課題と共通する。

【井上委員長】

- ・ 大学でも本の置き場がなく、デジタルデータにして複数ある本は処分の方。できるだけ本は残したいが、現実には書庫の狭隘化とどう折り合いをつけていくかが問題。
- ・ 大学でも対応できなくなりつつあり、日本全体でも同様の事が広がっていくのではないか。

【高橋副委員長】

- ・ 収蔵しているのであれば、是非予算化して活用して欲しい。

【事務局】

- ・ 貝塚茂樹先生の文庫について、半分整理はできている。和書については整理できていて中国の古典籍についてカードはできている。着手できていないのは各種雑誌類である。
- ・ 当館の蔵書は、学芸員が使っているものは閉架式になっている。図書室も本格的にやるのであれば、開架式にして人や司書も必要ということも考えられるが今回のビジョンには挙げていない。

○パブリックコメントについて

【大西委員】

- ・ どういう形で公表するのか。市民が閲覧できるようにするのか、回覧するのか。

【事務局】

- ・ 12月28日(土)～1月21日(火)の予定でパブリックコメントを実施。
- ・ HPで告知し、紙ファイルで市内の図書館・室、公共施設、市役所2階の情報コーナー、館内事務所・市民創作教室等で配架する。
- ・ 広報いずみ12月号でパブリックコメントを実施することを公表している。

【井上委員長】

- ・ 本日の意見を踏まえて最終的に修正を行う。修正したものをもってパブリックコメントに出すことにしたい。修正の内容について委員長一任で承認いただけるか。

【各委員より「異議なし」との声があり、承認】

4. 美術館運営状況のアンケート調査結果

【事務局】参考資料2アンケート調査結果(抜粋版)について説明。

- ・ 調査対象は、公立美術館241館、私立美術館146館、計387館にアンケート票を郵送し、計144件の回答があり、回答率は37%となった。
- ・ 調査結果については、今後の取組に活かすという観点から、ビジョンに掲げる5つの先行的取組の参考となる取組の実施状況等について整理した。
- ・ アンケート調査では各取組の具体的内容について自由記述での回答を得ており、それらを含めて5つの先行的取組等の検討に活かしていく。

○アンケートに対しての質問

【松本委員】

- ・ 回答の公立・私立の割合はどの位であるのか。

【大西委員】

- ・ 以前の委員会で立地等の条件が似ている美術館を抜粋したほうが良いという話があった。それについてはどう対応したか。
- ・ 国立は別格だが、他館の立地条件と入館料について思うところがあり、単独の立地で似たよう

なロケーションにある所がどういう取組をしているのかを次回でも知りたい。

【井上委員長】

- ・ 京都も人が増えてきた現状があり、久保惣記念美術館は、静かな環境であれだけのものを見ることができる環境を残して欲しいが、存続することが大事である。
- ・ 藤田美術館、大和文華館をはじめ日本全国の美術館がリニューアルする時期に直面しており、それに耐えられるかどうか問われている。リニューアルや改修でどこまで何をするかを検討しないと、何度も改修を繰り返すのは入館者にとっても迷惑であると感じる。
- ・ ボランティアについて無償とはどこまでを無償としているのか。無償でも交通費・昼食等の支給もあり得るが、有償・無償をどのように切り分けたのか。
- ・ アンケート回答で1923年につくられて2020年リニューアルの館もあり、興味深い。久保惣のリニューアルの参考にこれらの結果を活用したい。

【事務局】

- ・ 回答の公立・私立の割合の集計については後日提示する。
- ・ 条件が似ているところを集めている。しかし現状の集計では一つの条件、例えば立地条件だけ似ているところを集めてはいないが、クロス集計により回答を絞ることは可能である。例えば駅から2キロ圏内の回答はどうだったのか、等の絞り込みが可能である。現状はクロス集計まで至っていないが後に分析する。
- ・ ボランティアの有償無償については、そこまで厳密な前提を提示した設問にしていなかったため、回答者の判断による。

5. その他

- ・ 第5回：令和7年1月28日（火）午後3時～午後5時（終了予定）、場所 市役所3階 庁議室。
＜ 終 了 ＞